

建設通信新聞

最新技術に触れ新たなアイデアを

G空間EXPO2022開幕

G空間EXPO2022が6

日、東京都港区の東京都立産業貿易センター浜松館で開幕した。実地会場では7日まで企業・団体の展示やベンダーフォーラムなど多彩なプログラムを通して、日本のG空間社会を支える最先端の技術やサービスなどを紹介する。オンラインでは25日まで、講演シンポジウムなどを配信する。

12回を数える今回は、「G空間で創るデジタル社会」をテーマに、日本測量協会と全国測量設計業協会連合会、日本測量機器工業会、日本測量調査技術協会の測量関係4団体が主催する地理空間情報フォーラムを中核イベントとして、展示や体験イベント、講演やトークセッションなどを展開。内閣官房主催の地理空間情報を活用したビジネスアイデアコンテスト「イチBizアワード」の発表・表彰

も行う。

6日のオープニングセレモニーでは、運営協議会を代表して石井浩郎国土交通副大臣が、準大頂衛



星システム「みちびき」が2023年度に7基体制へと拡充されることに触れながら、「衛星測位技術の発展・強化は建設産業の生産

性を飛躍的に向上させることにつながる。この2日間、地理空間情報に関する最新の技術やサービスにふれ、分野を超えた交流を通じてさらに新しいアイデアが生まれることを期待している」とあいさつした。

日本測量協会の清水英範会長も「フォーラムでは社会にもっと注目してほしい地理空間情報技術やその応用に関するアイデア、情報が満載となっている。有意義な時間を過ごしてほしい」と呼び掛けた。宇宙システム開発利用推進機構の三神泉常務理事が「オンライン配信によって遠方からも簡単に最新技術に触れられるいい機会となる。従前以上に多くの人々がアクセスすることを祈念する」と述べた後、テープカットがあり、集客型による実地会場での開催を祝った。写真。